

令和3年度(2021年度) 第1回コミュニティ交通部会 議事録

I 日時等

1. 日 時：令和3年(2021年)8月23日(月) 午前10時～午前11時
2. 場 所：熊本市役所 別館自転車駐車場8階 会議室

II 主な内容

1. 開会

2. 部会長挨拶

3. 議事

(1) 公共交通空白地域等における予約型乗合タクシーの制度見直しについて (事務局)

- ・資料1を用いて説明

(部会長)

- ・1ページ目に、空白地域や不便地域の定義、それに対する現在のサービスの在り方。2ページ目に現状の利用者数が記載してある。コロナ禍で利用者が少ないと考えるが、これは年間の利用者数のことなので、1日あたり1人も乗ってないところもあるという状況である。そこを踏まえ、3ページ目で制度の見直しの方向性や留意事項などもまとめていただいて、アンケート調査等を実施してみようかと、事務局からご提案が出ている。説明を踏まえ、皆様からご意見をいただきたい。

(委員)

- ・平成30年、令和元年、令和2年にいくに当たって、利用者が激減した路線について原因が何かあるのか。
- ・平成30年度と平成元年度の全体の合計利用者数が前回(7月30日開催の公共交通協議会)の資料と異なっているのはなぜか。

(事務局)

- ・コロナの影響で外出を控えるというような動きの影響が大きいかと考えている。
- ・2点目の数字については分析ができていないため、部会中に回答する。

(委員)

- ・コミュニティ交通については、当初から、まちづくりセンターを中心に、地元の皆さんと協議をしながら、一定の巡回ルートを設定すべきではないかと主張していた。
- ・公共交通不便地域が500メートルか300メートルかを、今後、公共交通協議会の中で検討していく必要があるのではないかと。
- ・予約があってから移動距離を短縮するために家の前まで来ることが出来ないか。

(事務局)

- ・見直しの視点としては大事なことだと考えている。ただ、行政としてはどこまでできるかというのは、コミュニティ交通が導入されていない他の地域や導入されている地域も含めて、他の地域との均衡性や路線バスとの均衡性、整合性など、様々な視点で検討することが必要になっている。その中でも利便性の向上は非常に大事だと考えており、使ってもらわなければ意味がない。制度があっても意味がないと考えているので、委員からご提案があった視点について十分に検討し、進めていきたい。
- ・空白地域等以外の地域にもいろんな移動サービスを導入していく話になる場合、それに合わせ空白地域、不便地域に対応したデマンドタクシーもやり方を変える必要があると思っている。行政も利用者に使ってもらえるサービスに変えていくことが重要で、(議事2のAIデマンドタクシーの活用などで)500メートルがいいのか300メートルがいいのかという話も対応できる部分があるのではないかと思う。

(委員)

- ・参考になればと思うが、令和元年度から令和2年度にかけて利用者数が増加している。ゆめタウン光の森店まで延伸していただいたため、利用者が増加したと考える。
- ・龍田の二里木まで延伸するとさらに利便性が出てくるのではないかと希望として思っている。

(事務局)

- ・明るい話題のほうで、ご意見をいただきありがたいと思う。
- ・既存の乗合タクシーについての地元の方々からのご要望等は、随時ご相談に乗らせていただくということにしており、また話ができればと考えている。

(委員)

- ・利用される方だけではなく、利用しない方にも広く調査をし、ご意見を聞くことをやっていただき、利用者の増加につながるヒントを集めることが大事だと思う。
- ・無料券を配るとか例えばこの日は1日、無料とか、そのような動機づけで、何か試みをこれまでされたことがあるか、伺いたい。

(事務局)

- ・キャンペーンのようなものはこれまでやったことがないのが実情。ただ運行開始する際に運行開始式を行った事例はあり、広く地域の方々にご紹介をしている。
- ・また、地域の運行協議会から依頼があった場合は、乗り方講座の開催を行っており、昨年度は地域の方々に乗り方の案内を記載したチラシを配布するなど、これまでも利用促進を図ってきた。今後様々な方々へ、そういった形で周知をしていくことで、このコミュニティ交通の利用促進に取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

- ・南区のてんめい乗合タクシーが259名から529名、約倍増している。理由を教えてください。

(事務局)

- ・西区の沖新のり愛タクシー、南区の畠口、てんめい、中緑、この乗合タクシーは昨年度の10月から運行を開始している。説明が不足しており申し訳ないが、令和元年度は10月からの半年間の数字という形になっており、令和2年度は1年間である。年間で比較すると実際は減少していると考えます。

(部会長)

- ・アンケート調査の実施等に向けて、事務局の方にも頑張ってください。
- ・最後、事務局からお願いします。

(事務局)

- ・委員から御質問をいただいた2点目の質問についてお答えする。芳野さくら乗合タクシーについては、令和元年度までは予約型ではなく定時定路線で運行するやり方をやっており、(7月30日に開催の公共交通協議会資料には)芳野さくらバスの時代の数字を実数として入れ込んだ記載をしていた。今回は予約型乗合タクシーの比較というところに限定したつくり込みをしたため、その差異が出たもの。

(部会長)

- ・アンケート調査の中身に関して、必要であれば、私の方で確認等させていただきたい。アンケートをやって終わりではなく、地域の人の本当の声を聞いていくことも大切だと思う。
- ・今後の進め方について最後、ご説明いただいて議題を終わらせたいと思う。

(事務局)

- ・北区、西区、南区とそれぞれで利用の傾向が違っており、アンケートを実施するに当たっては、それぞれの傾向を見たところで、バス停だけがある路線で、利用者が多い路線少ない路線の比較、またはスーパーなどの施設がある路線で、利用者が多い路線少ない路線の比較対照ができるように進めていきたい。また南区役所が積極的に乗り合いタクシーについて検討を行う機運が非常に高いことから、南区を中心に地域の意見を取り入れながら、やっていくというようなことを考えている。

(部会長)

- ・他に意見はないか。
- ・それでは、議題2「デマンドタクシーの実証実験」に移りたいと思う。

(2) AI デマンドタクシーの実証実験について

(事務局)

- ・資料2を用いて説明

(部会長)

- ・健軍地区を拠点とした新しいタクシーの実証実験について、実施主体は実行委員会になるが、部会としても気をつけなければならないこと、あるいは違った視点があるのではないかなど、などのアドバイス、コメントをいただきたい。

(委員)

- ・実証実験の中身については賛成である。
- ・今回の実証実験はコロナ禍の中での実施ということだが、コロナによる影響で利用者は、十分確保出来ないのではないか。また、正確な情報の把握ができるのか。

(事務局)

- ・コロナ禍による影響を一部受けることは認識している。一方で、今回コロナ禍での実験を行うことにより、コロナ前後での比較ができると考えている。実証実験を行う上では、最大限の感染対策を行い、実施していきたいと考えている。
- ・国は、将来的にタクシーの相乗り制度の解禁を予定している。今回の実証実験の中で、相乗りの許容確認や、運行の効率化、利用者ニーズを把握し、解禁された際、スムーズに実装できるように効果検証していきたいと考えている。

(委員)

- ・AI デマンドタクシーでの相乗りは、予約の段階で A さん B さんの 2 人の予約があり初めて成立するが、A さんだけの予約の場合は配車できないのか。

(事務局)

- ・今回の実証実験は A さんだけの予約でも成立するものである。相乗りするかどうかはタイミング次第であり、A さんを迎えに行っている間に B さんから、急遽予約のご要望が来た場合、AI がシステムの中で、効率的な運行が可能と判断すれば相乗りでの配車となる仕組みである。

(部会長)

- ・平日の午前 7 時の実施で大丈夫か。健軍電停で、普段人が集まるところに、さらに集めてしまっても大丈夫か。その辺りの時刻の調整をご検討いただければと思っている。

(事務局)

- ・時間帯については今後、実行委員会の中で、再度検討を行い決めていきたいと考えている。

(部会長)

- ・メインのターゲットをどこにするかということもあると思うが、今まで、市電を使っていた人をさらに便利にするというより、多くの方に健軍商店街へ買い物に来てもらう、あるいは病院により便利に行ってもらうことが特にメインのターゲットのような気がするため、そんなことも意識しながらつくっていくことが重要だと思う。

(委員)

- ・高齢ドライバーが増えてきた中で、タクシーの乗務員がアプリを使ってどうこうするのは難しいのではないかと。
- ・利用者の皆さんには、料金が安くなることは最高のサービスかもしれないが、それ以上のサービスがあるのではないかと、特にタクシー業界では言っている。
- ・バス事業者が経営努力をされており、バスとタクシーで仲良くやっっていこうとしている中、心配な部分もある。
- ・今回の実証実験については、大いに実施していただいていると考えている。

(部会長)

- ・実験ということで、いろんな課題が見えてくると思うし、バスと競合するようなことは意識していない。そのバスを使ってる人を奪うということではないと思っており、その辺りもいろんな方にもご説明いただき、理解いただいて進めていくことが大切だと思う。
- ・バス業界のみならず、タクシー業界の皆様とも連携してやっていくことが大切だと思う。
- ・事務局の方からコメントをいただければと思う。

(事務局)

- ・現在のタクシー業界の実情として、タクシードライバーの方の高齢化が進む中、こういったAIを活用した先進技術を高齢の方々が利用できるのかという意見はいただいている。システムも含め、実際にうまく利用できるかは今回の実証実験の中で確認していきたいと考えている。
- ・バスとタクシーの競合の部分については、電停・バス停までの2次交通の役割がこのAI デマンドタクシーの中ではあるのではないかと考えており、実証実験の中で確認し、今後につなげていければと考えている。

(部会長)

- ・他に意見はないか。
- ・こういったことを実証実験の実行委員会の方に伝え、今後につながる実験にしていただければと思う。
- ・それでは本日の議事を終了する。